

事業の概要

1. 幹事会の開催

(1) 幹事会

回	日 付	場 所	参加者
1	令和6年4月22日	広島県トラック総合会館	16名
2	令和6年5月23日	広島県トラック総合会館	17名
3	令和6年6月19日	広島県トラック総合会館	18名
4	令和6年8月8日	広島県トラック総合会館	6名
5	令和6年8月28日	広島県トラック総合会館	13名
6	令和6年9月25日	広島県トラック総合会館	15名
7	令和6年10月30日	広島県トラック総合会館	14名
8	令和6年11月25日	広島県トラック総合会館	11名
9	令和6年12月17日	広島県トラック総合会館	16名
10	令和7年1月22日	広島県トラック総合会館	17名
11	令和7年2月26日	広島県トラック総合会館	16名
12	令和7年3月18日	広島県トラック総合会館	16名

2. 会議・研修会の開催

(1) 新社長就任激励会

日 付 令和6年4月13日
場 所 広島市「ホテルグランヴィア広島」
参加者 73名
内 容 令和5年1月～12月の間に社長就任された8名を激励

(2) 事業者大会

日 付 令和6年7月20日
場 所 広島市「ホテルグランヴィア広島」
参加者 105名
内 容 総会議案、地区青年組織の活動、トラック業界の状況について報告
講 演 演題 「マクドナルド成長」の裏側 “3 Legged Stool”
講師 株式会社 ピアレス 代表取締役 松尾 茂文 氏

(3) 第17回スキルアップセミナー、令和7年新年互礼会

日 付 令和7年2月8日
場 所 広島市「リーガロイヤルホテル広島」
参加者 89名(スキルアップセミナー)、89名(新年互礼会)
内 容 「人材確保、取引環境改善」をテーマに、トラック運送業に関する実践事例を
会員事業者が発表

3. 参加した会議

(1) 中国ブロック青年部協議会

会議名	日 付	場 所	参加者
第1回幹事会	令和6年7月10日	浜田ワシントンホテルプラザ	正副会長
第2回幹事会	令和6年10月23日	岡山シティホテル厚生町	正副会長
第3回幹事会	令和7年3月6日	山口県トラック協会研修会館	正副会長

(2) 全日本トラック協会青年部会全国代表者協議会

回	日 付	場 所	参加者
1	令和6年6月21日	全日本トラック総合会館	会長
2	令和6年11月21日	全日本トラック総合会館	会長
3	令和7年2月13日	全日本トラック総合会館	正副会長

(3) 全日本トラック協会青年部会ブロック大会

ブロック	日 付	場 所	参加者
北海道	令和6年7月12日	ホテル黒部	－
東北	令和6年8月23日	八戸パークホテル	－
関東	令和6年6月28日	浅草ビューホテル	会長
北陸信越	令和6年10月18日	石川県立音楽堂	正副会長
中部	令和6年9月27日	グランディア芳泉	－
近畿	令和6年9月6日	琵琶湖ホテル	正副会長
中国	令和6年11月16日	ホテルグランヴィア岡山	広島県 43 名
四国	令和6年11月8日	ANA クラウンプラザホテル松山	副会長
九州	令和7年2月7日	ホテル日航熊本	正副会長

(4) 全日本トラック協会青年部会全国大会

日 付 令和7年2月14日

場 所 東京都「京王プラザホテル」

参加者 約700名(広島県から17名参加)

内 容 青年経営者等による先進的な事業取組に対する顕彰 授与式・受賞者事業発表
青年部会活動報告

講 演 演題 AI時代の戦略的「モードチェンジ」のすすめ

講師 藤原 和博 氏

4. トラック日に関する行事の企画運営

(1) ひろしまトラックまつり

名 称	第31回ひろしまトラックまつり
日 時	令和6年10月13日(日) 9:30～15:00
場 所	広島運輸支局構内 広島市西区観音新町4丁目13-13-2
目 的	物流に関する様々な取り組みを広報し、国民生活と経済活動に貢献するトラック輸送の重要性をアピールするとともに、交通安全、環境対策等の社会貢献活動についても紹介し、広く県民の皆様のトラック業界に対する理解につなげることを目的として実施。
主催者	(公社)広島県トラック協会 ひろしまトラックまつり実行委員会
参加者	一般県民 約15,000人(主催者発表)
内 容	1. 広島県トラック協会の会員事業者の協力により、会場内にトラックを40台展示するとともにトラックの写真をInstagramに投稿し、投票企画「広島で一番カッコいいトラックに投票しよう！」を実施。 2. 投稿企画「ひろしまトラックまつりフォトコンテスト！」を実施。 来場者に当日楽しんだ様子をInstagramに投稿いただきイベント内で結果を発表。 3. 広島県トラック協会の会員事業者の協力により、こども運送お仕事体験を実施。 点呼(アルコールチェック)、車両点検、配送業務などトラックドライバーの1日職業体験。 4. 広島県トラック協会の会員事業者の協力により、運転席(寝台スペース)体験を実施。 4t・10tトラックの運転席および寝台スペースへの乗車体験および写真撮影。 5. 広島県トラック協会の会員事業者の協力により、冷蔵冷凍車の荷台に入る極寒体験。 トラックの荷台に作られた保冷库に入り、室内の温度マイナス25℃を体感。 6. 広島県トラック協会の会員事業者の協力により、プロの技！トラック連携Show！を実施。 トレーラーの走行実演、ユニック操作実演、荷役作業(フォークリフト、ゲート車)実演。 7. 広島県警察の協力により、パトカー、白バイを展示。 飲酒体験ゴーグルの体験、交通事故写真パネルの展示など交通安全に係る啓発活動。 8. 広島県交通安全協会の協力により、交通安全体験車「ヒコア号」を展示。 動体視力の測定、自転車シミュレーター、運転・歩行能力診断等を実施。 9. 自動車安全運転センターの協力により、ワンダくんとふれあいコーナーを実施。 ぬり絵、運転記録証明書の分析資料の提供、優秀安全運転事業所の表彰制度の紹介等。 10. N A S V A 自動車事故対策機構の協力により、適性診断の体験等を実施。 自動車アセスメント事業の紹介、動体視力測定等。 11. 中国トラック交通共済協同組合の協力により、トラックペーパークラフトを実施。 トラック型の下絵を基に、色付けや好きな絵柄を描いて組み立てる工作。 12. 中国新聞社の協力により、飲酒運転撲滅キャンペーンを実施。 ゼロテスト問題パネルを使用した啓発。青のリストバンド(キャンペーンシンボル)配布。 13. 中国新聞社(備後本社)の協力により、KIDS' SAFETY CHALLENGEを実施。 4tトラックを使用した死角体験、交通安全活動の展示、子ども安全免許証の発行を実施。 14. 広島市(環境局 温暖化対策課)の協力により、環境ブースを実施。 エコドライブの啓発、マイカー乗るまあデーの周知、温暖化対策啓発資料の配布を実施。 15. 広島県立技術短期大学の協力により、物流で使われる制御装置の体験を実施。 学生が自作した電気自動車の展示、ゲーム機やロボットの操縦体験。 16. 日本自動車販売協会連合会の協力により、未来のトラック情報コーナーを実施。 EVトラックPRパネルの展示などカーボンニュートラルの取り組みを紹介。 17. 広島県(危機管理監 みんなで減災推進課)の協力により、防災ブースを実施。 能登半島地震にて緊急輸送を実施した霊柩部会の活動を紹介、減災輪投げゲーム等を実施。 18. 広島県トラック協会引越専門部会の協力により、引越なんでも相談会を実施。 引越相談窓口の開設、分散引越依頼等チラシ啓発、粗品や風船配布等を実施。

	19. 令和6年度「トラックの日」絵画コンクールの表彰式を実施。 広島市の小学校61校から2,834枚の応募があり、入賞者を表彰。 20. とらビズ！広島トラック業界ビジネスコンテストの一般投票審査を実施。 学生が考えたビジネスプランをポスターセッションにより来場者に紹介および投票。 21. 近隣の学校、広島県警察音楽隊などの協力により、ステージ演目を披露。 吹奏楽、和太鼓・書道パフォーマンス、チーム対抗トラック運送バトル 22. 広島県トラック協会の女性活躍促進検討部会、キッチンカー22台による飲食販売。
--	--

(2) 実行委員会

回	日 付	場 所	参加者
3	令和6年4月22日	広島県トラック総合会館	8名
4	令和6年5月23日	広島県トラック総合会館	9名
5	令和6年6月19日	広島県トラック総合会館	6名
6	令和6年7月4日	広島県トラック総合会館	9名
7	令和6年8月6日	広島県トラック総合会館	8名
8	令和6年9月9日	広島県トラック総合会館	9名
9	令和6年10月2日	広島県トラック総合会館	8名

※ 令和5年度に実施した2回の実行委員会を含め、第31回ひろしまトラックまつりのために9回開催した。

委員会構成員

団体役職名	事業者名	会社役職名	氏名
実行委員長	東洋運輸(株)	代表取締役	梶 優介
副実行委員長	(有)丸宮運輸	代表取締役社長	宮本 忠行
副実行委員長	マルヒ急送(株)	代表取締役社長	門田 哲彦
副実行委員長	(株)ダイビン運送	代表取締役	山本 洋司
委員	中国陸運(株)	代表取締役社長	西尾 義輝
委員	向島運送(株)	代表取締役社長	須田 毅
委員	志和貨物自動車(株)	代表取締役社長	牧尾 和志
委員	(株)河野	代表取締役社長	河野 幹章
委員	(株)岡明運送	代表取締役社長	一橋 俊秀

5. とらビズ！広島トラック業界ビジネスコンテスト

目 的	活力ある業界を創るためには、次世代を担う若者の力が必要である。学生向けのビジネスコンテストを通じて、トラック運送業界の面白さや今後の可能性を伝え、広く関心を持っていただくことにより、人材の確保・育成につなげることを目的に実施。
主催者	(公社)広島県トラック協会
内 容	募集から審査会、表彰式まで以下のスケジュールで開催。 1. 6月17日~7月19日・・・エントリー受付 2. 7月30日、8月5日、8日・・・業界研究インターンシップ 3. 8月30日・・・ビジネスアイデア提出締切 4. 9月21日、22日・・・プレゼン審査会 5. 10月13日・・・一般投票審査(「ひろしまトラックまつり」会場内) 6. 10月13日・・・表彰・授賞式(「ひろしまトラックまつり」会場内) 募集方法 以下の宣伝告知活動により広島県内の高校生以上の学生へ募集を実施。 ・ 学生が集まる場所(学校授業・ゼミ等)で説明 303人 ・ 高等学校および大学などヘリーフレット告知 285件 ・ Webサイトを使った「Web広告」と「SNS活用」 リーチ数97,446回、クリック442回 ・ その他に新聞や雑誌などのマスコミへのリリース 募集結果 ・ 業界研究インターンシップの参加数 延べ参加者44名(9校) ・ プレゼン審査会の参加数 29名(12プラン)
実 績	「プレゼン審査」と「一般投票審査」の2つの審査点数から受賞者を決定。 1. 最優秀賞 「トラックを避難場所に」 松永光成、三浦尊統(安芸府中高等学校) 日本では、地震や大雨などで様々な災害が起きている。そこで、よく耳にする避難場所という言葉。それを追究していくと、避難場所不足という課題があげられた。そこで、その問題を解消するために、何か案がないだろうかと考えたところ、トラックを避難場所にすればよいのではないかという考えに行きついた。少しでも多くの人の命を救う、そして、住む場所を提供するというテーマのもと考案した。 2. 審査員特別賞 「トラックのDMV化について」 福島詩月(呉青山中学・高等学校) トラックをデュアル・モード・ビークル(DMV)に改造し、線路と道路の両方を走行可能にすることで、災害時の輸送力を大幅に向上させるというアイデアについて様々なデータを元にメリットとデメリットを比較しました。メリットとして、道路の損傷があっても鉄道を利用できるため、物資の輸送が円滑化でき、反対にデメリットとして、事故などが起こった際に処理が複雑化する、新たに付ける鉄車輪の制限により輸送量が低下する、というデメリットがありました。これらの要素を総合的に考慮することで、導入した際の効果や課題が明確になりました。 3. トラックまつり来場者賞 「～被災地復興までの架け橋となる～ ニジトラ」 竹本善一(広島修道大学)

日本は地震大国であり、さらに近年は台風や大雨による土砂災害など全国で様々な被害が起こっています。これらの自然災害は今後も起こっていくと考えられる。そこで災害発生後から復興できるまでに必ず必要となるのは生活を行う場所である。現在は避難所での生活が主流となっているが、避難所での生活による災害関連死が増えている。

これらの現状を打破するために、「ニジトラ」という簡易住宅コンテナを考えた。ニジトラは、避難所での生活よりも高い生活水準を保てるため災害関連死を減らすことが可能であり、災害大国日本という国で必ず活躍すると考える。

4. もったいナイス賞

「地域自立型 災害対応強化プログラム」 長田留名(叡啓大学)

災害時における迅速な復旧と被害軽減を目的とし、トラック運送業者が特殊な車両の操作技術を習得し、活用することを促進するものである。資格取得支援や企業の協力を得るための報酬制度を導入し、災害時に多用途で使用可能な車両を効率的に活用する。これにより、企業は社会貢献と経済的メリットを両立し、地域の災害対応力を強化しながら新たな事業展開の機会を得ることができる。

5. ゲームで救えるで賞

「ゲームで救え!!桃鉄ならぬレモトラ!？」 小牧直太郎、村上涼輔 森岡健太 荒牧秦心、越智まりん 小原里桜 石田千智(瀬戸田高校)

今回、私たちが提案するアイデアは、今までにありそうでなかった、「トラックのゲームを作る」というものです。今あるゲームは、レーシングシュミレーターのような硬派なものが多いです。しかしながら、トラックゲームが桃鉄のように親しみやすいポップなデザインになれば、今よりも多くの人々がトラック業界について興味や知識を持ってくれると思います。加えて、トラック事業者の方の話で実際に起きる内容や、自然災害や渋滞、台風などをイベントとして設定し、ゴールを目的地として設定することで、楽しみながら実際の仕事を知ることができます。

※ 広島県トラック協会女性活躍促進検討部会と合同で運営した。

6. その他

(1) 広島県トラック協会から事業活動に関する助成金を受領

助成金	(単位:円)
摘要	金額
1. 本部青年部協議会	1,966,180
2. 地区青年組織	2,573,416
3. 女性活躍促進検討部会	332,140
合計	4,871,736